

子どもが生きるために

必要なもの

子どもには、食べたり着たりする」と同じくらい大切なことがある。それは心ゆくまで遊ぶこと、想像の翼を広げじこまでも飛んでいくこと。

誰にも夢の時間がある。道端のガラス片がダイヤモンドよりも輝いて、透かせば世界の果てまで見えてくる…。子どもだけではない。人間は物語の世界に浸り、目に見えないものを想像し、歌い、踊り、自然のようなものと一緒にとなつていく喜びを幸せと感じる生き物だ。

しかし子どもの時にしか見えないものも残念ながら、ある。

子ども達にとって必要不可欠な文化を届けるためには大人の力が必要です。

公演の作り方さまざま

子ども達に劇を届けるために、いろんな公演の形があります。決まった形はありません。「見せたい」子ども達の顔を思い浮かべて知恵を出し合います。1950年に風の子が生まれてから、たくさんの人達と話し合いながら公演を作つきました。



劇団風の子北海道

劇団風の子は、戦後の焼け野原の中で、次の世の中を作る子ども達に、自分の目で物を見、考える子どもになってほしいという願いから作られた劇団です。子どものための専門劇団として、常に変化する子どもを取り巻く社会を見つめながら劇を作つきました。

風の子北海道は地方の文化と子どもを見つめて創作活動する地方劇団の第一号として生まれ40年近くになりました。「めっきらもつきらどおんどん」だけでなく、風の子北海道の児童、小学校向けの作品は、自然光を取り入れた明るい場所に舞台を作り、全部、生の音で行います。暗くなるのが苦手な子ども達や機械の音が苦手な子ども達も安心して観ててくれています。2020年以降は新型コロナウイルスなどの感染症対策も行いながら公演活動を行っています。ぜひ、相談してください！



 劇団風の子北海道

〒011-0027 札幌市北区北27条西11丁目5番7号 ☎011-726-3619 FAX 011-726-0303
E-mail: kazenoko-hokkaido@remus.dti.ne.jp

劇団風の子北海道作品



作／長谷川撮子
演出／なるみてるまさ
美術／有賀二郎
音楽／岸 功
人形制作／高田道雄
制作／植村直己

あらすじ

ぼくはカンタ、タカハシカンタ。
みんなと山へ遊びにいった。セミをとった。
ア、変だぞセミの声がきこえなくなった。
あん、みんなはどうへ行つちゃったんだうう。
「何はやうになんだだ？」 オーイ！
…ぼくはめちゃくちゃのウタをうたつてやつた。

ちんぶく まんぶく
あっぺらいのきんぴら
じょんがら
めつきりむつきり とおんじる
あつわれた。

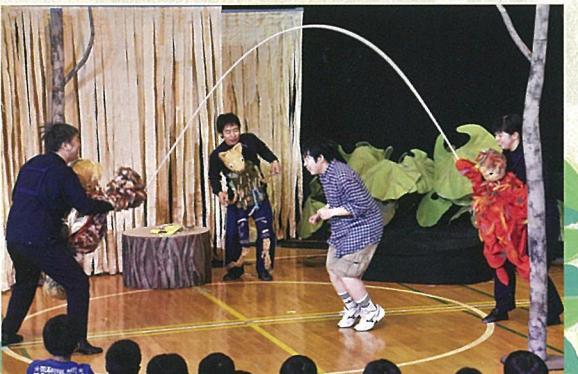
そしたら、めちゃくちゃ、呪文で、
おかしなおはけたちが、
ぴこたこ

シツカカモツカ力に、
モンモンピヤツコに、
オタカラマンチン！

めっきらめっきらどあんどん

制作にあたつし

この劇は1987年に絵本の作者である長谷川摂子さんに台本を書いて頂いて創りました。「しつかかもつかか」と枝飛び谷飛び坂道3段飛び、「もんびやつ」と縄跳び競争、「おたからまんちん」とお宝交換。子ども達のイメージする力を借りて、カンタ君は空の上で飛んで行つたり海や虹を見たりするのです。絵本では神社の境内がお話の始まりですが、風の子の劇では北海道のあるところの、裏の山と森が舞台です。谷川俊太郎さんの遊び歌の力も借りて子ども達の心を動かします。



原作・台本／長谷川摂子
演出／なるみてるまさ
美術／有賀二郎
音楽／岸 功
人形制作／高田道雄
制作／植村直己